

学び合いを促す指名の極意



授業を振り返ってみてください。授業中の指名の方法は何種類(何パターン)ぐらい思い浮かびますか？ そう言われれば、あまり思い浮かばないという方・・・是非、挑戦してみてください。

極秘そのⅠ 起立指名法

発問後、自分の意見が持てた子は次々と起立させる指名法です。

発問に対する自分の意見が持てた子は、挙手ではなく起立をさせます。手をあげるのではなく、起立するとより目立ちます。

起立した子は起立した子同士で意見の確認をしてもよいこととします。こうすることで不思議なことに挙手よりも起立する方が連鎖反応をおこします。

席を立つことで身体が解放されるからかもしれません。座っている子に対して周りの邪魔にならない範囲でヒントを出しても構わないと伝えています。

そうすることで、どんどんと起立する子が増えます。座っている子は他人事でなく追い込まれていくわけです。

子どもは自分がかかわった友だちが活躍することを殊の外喜ぶものです。人の役に立つという実感や快感を得るからでしょう。こうして、友だちが発表することを応援する姿勢が生まれてきます。

極秘そのⅡ 立場指名法

発言のあった意見に対して必ず(YE or NO)の立場を明らかにするのが立場指名法です。

「Cさんの意見をどう思うか。 ですか×ですか」とか「F君の考えに賛成ですか？ 反対ですか？」とか「D君の立場ですか？ E君の立場ですか？」とか

一人の発言に対して、自分の「立場」を表明させるのです。こうすることで、全員が考えざるを得ない状況をつくります。つまり、数名の子の立場や考えにこだわる場を設定するのです。全員、いずれかに挙手することで、同じ立場や考えになった者同士が自由に席を離れて相談できるようにします。

こうすることで、個々の発言機会の場が生まれ、聞きあいや伝え合いが小グループ内で行われます。仲間の中で、自然と発言をする機会を設定します。

この方法に慣れてくると、発言機会は子どもの自主的な発言機会へと移行していきます。

子どもたち一人一人を学習に向きあわせ、全員を授業へと巻き込んでいくための授業中の指名方法を紹介しました。もちろん、学習のねらいや内容の具体的な想定が必要です。